

5月期間集会

○今日は避難訓練

今回の避難訓練は3号館調理室の火災発生という想定で避難訓練を実施しました。

火災の単体での避難訓練でしたが、「地震、カミナリ、火事」といわれるように、地震から火災が広がる、落雷から火事になるなど複合的な災害の方が多いと思います。また、東北地方では自然発火によるものなのか、岩手県大槌町や福島県喜多方市で大規模な山火事が起こりました。

先月も20日の夕方に東北地方、三陸沖を震源とするマグニチュード7.7、深さ19キロと推定される地震が発生し、青森県階上町で最大震度5強など、東北地方を中心に北海道から東海地方、一部近畿地方までの広い範囲で揺れを観測しました。気象庁は地震直後、北海道から青森県、岩手県の太平洋沿岸地域に津波警報等を出しました。岩手県の久慈港で80センチなど、各地で津波を観測しました。この地震で最大19万人以上に津波からの避難指示が出されました。この後、気象庁はより大きい後発地震が発生する確率が高まったとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表。北海道から千葉県までの7道県182市町村を対象に今後1週間、巨大地震への警戒を呼びかけました。

その「後発地震注意情報」の1週間の期限の切れる4月27日早朝、北海道浦幌町で震度5強の地震がありました。震源は北海道十勝地方南部でマグニチュード6.2、深さは83キロ。この地震は、20日に青森県で震度5強を観測した地震と直接の関係はないとみられ、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が想定している巨大地震には当たらないそうです。

東北地方の地震の2日前、18日の昼過ぎ、長野県北部を震源とするマグニチュード5.0、深さ8キロと推定される地震が発生しています。長野県大町市で最大震度5強、長野市で震度5弱を観測しています。震度5強の地震の約1時間半後にもマグニチュード5.1の地震が発生し、最大震度5弱を観測しました。長野と東北、北海道の地震では、幸い深刻な人的な被害や火災もありませんでした。

3月11日にもお話ししましたが、15年前の東日本大震災によって、日本列島の広範囲にかかる力を一変させ、「大地動乱の時代」が始まってしまったのではないかと、どこで大きな地震があってもおかしくないということです。いずれおこる南海トラフ地震や、それに伴うかもしれない富士山の噴火もいつ来るかわかりません。日本列島はいつ何が起きてもおかしくない状況だということを自覚して日々の生活を送りましょう。

「備えあれば憂いなし」今回の避難訓練もその準備と捉えてください。

○5月22日は創立記念日

来週、1週間後の5月22日は本校の創立記念日です。「東洋大学附属牛久高等学校 30年の歩み」によると、62年前の1964（昭和39）年4月9日に、第1回入学式を行い7クラス361人の1期生が入学しました。当時の生徒数は多く、1クラス50人以上の編成でした。

高度経済成長期、牛久町は国鉄常磐線の駅があり、東京への通勤の住宅地として人口が増え発展する見込みがあり、高校のなかった当時の牛久町からの要請で東洋大学の附属高校として、牛久初の高校として、旧岡田中学校の敷地を利用して学校が作られました。5月2日には筑波山に校外学習に出かけ、筑波山の境内で生徒会が発足しました。

5月22日に今はもうない土浦京成ホテルで開校式を行い、この日をもって本校の創立記念日としています。翌日にはPTAが正式に発足しています。

創立当初は、校舎も十分出来上がっていませんでした。2期生3期生の入学式や、全校生徒が集まる講演会などは牛久第一中学校の体育館を借りていました。1期生の卒業式に間に合うように1967（昭和42）年1月に旧体育館が完成しました。この後も牛久町から様々な支援を受けて学校が形作られていきました。

本校にはPTAの他、部活動等を支援してくれる後援会という組織がありますが、この後援会の会長は歴代牛久の町長、市長が就任しています。

○牛久市制40周年

今年、牛久市は市制40周年を迎えます。牛久町は、つくば科学万博のあった1985（昭和60）年には人口5万人を超え、市になる要件を備えたので、1986（昭和61）年6月1日に牛久市になりました。10年前の2016（平成28）年には、人口8万5千人を超えました。

今年は牛久市制40周年記念として様々なイベントが行われています。テレビ番組にも牛久市がよく出てきます。3月末にNHKの「のど自慢」、テレビ朝日の「相葉ヒロミのお困りですかー」では、牛久シャトーの庭園の池の清掃、整備する企画がありました。また、テレビ東京の「開運！なんでも鑑定団」の「出張！なんでも鑑定団」の収録も5月10日に中央生涯学習センターで行われました。

先日、5月3日には、牛久市制40周年記念事業として「市内高校生による壁画制作」お披露目式がありました。牛久シャトーに隣接して、牛久市役所の西側に公園と池、水上ステージがあります。その大きな壁面に牛久市内の高校4校（本校、県立牛久高校、県立牛久栄進高校、つくば開成高校）の美術部の生徒たちが集まり、半年かかってコンクリートの壁面にペンキでペイントしていきました。牛久大仏、牛久シャトー、カップパなど牛久の名物を、4校の生徒たちが牛久の1年間、春・夏・秋・冬として描きました。本校美術部の作品は、ステージに向かって左側の壁に、春をテーマに描いています。

牛久市によると、次代を担う高校生の情熱と創造力が込められた作品が、市の新たなシンボルとして広く市民に親しまれるものとされています。ぜひ皆さんも牛久市役所に立ち寄る機会があれば、カラフルで楽しい画面が連続する壁画を見てください。